

地域包括ケアに関する取組み

南 区

令和5年3月末現在

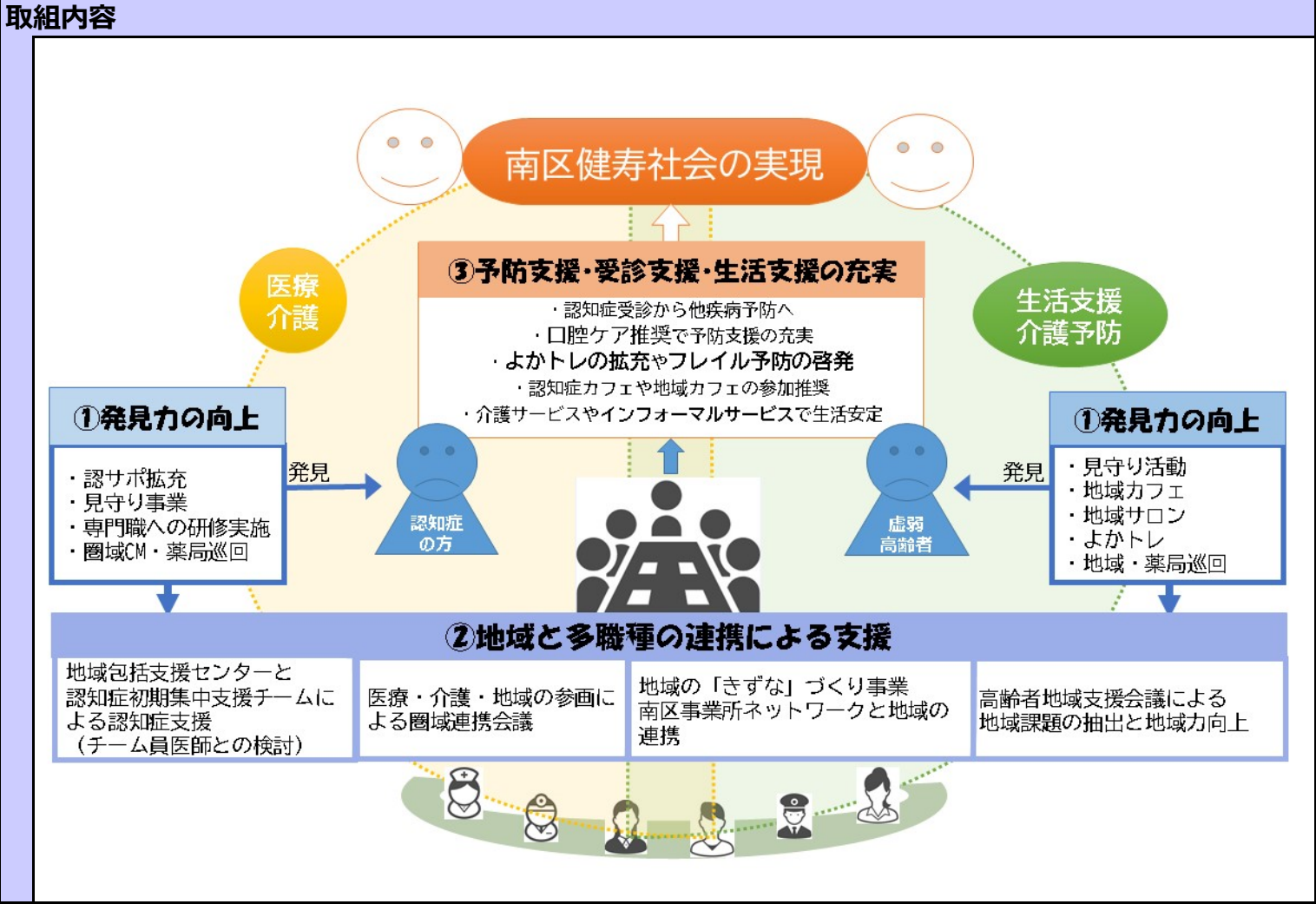
○概況

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】 面積は7区中5番目であるが、人口は東区に次いで2番目に多い。人口密度は中央区、城南区に次ぐ3番目で、昼間人口に比べて夜間人口が多い「くらしのまち」である。自然環境にも恵まれており、「ため池」は地域のオアシスとして散策コース等に活用されている。また、丘陵地が点在している。 【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】 高齢化率が全市平均より高く、校別でみると大楠校区 15.2 %から弥永校区34.5 %と差があり、各町内でも高齢化率の差が大きいところがある。 【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】 医療機関は、基幹病院があること、精神科病院が5か所あることが特徴である。また、三師会を中心に、医療と介護の多職種間での連携した取組み等が活発に行われている。南区医師会は、在宅医療ネットワーク(平成11年～) 認知症診療ネットワーク(平成24年～)、区民と医師との会(昭和51年～) など取組みが行われている。 地域包括支援センターが主催する圏域連携会議等を活用し、各圏域内で医療機関・介護サービス事業所を中心としたネットワークが構築されている。	人口（人）	260,892
	高齢者数（人）	61,727
	高齢化率（%）	23.7
	小学校区数	25
	いきいきセンター圏域数	11

○地域包括ケアに関する現状と課題

- ・在宅医療・介護の分野では、コロナ禍においても、オンライン等を活用しながら各レベルの地域ケア会議での関係者間のネットワークづくり、各団体の連絡協議会・研究会を通じた同職種間・多職種間の連携強化等に取り組んできた。コロナが落ち着き始めたため、今後は対面の機会も増やしながら、地域包括ケアや在宅医療・介護への理解等が各団体において十分浸透するよう、専門職への資質向上方策や市民啓発を継続して行っていく必要がある。
- ・生活支援・介護予防において社会資源の礎となる校区単位の共助の取組みを進めるには、「担い手不足」「丘陵地等外出困難地域への送迎等支援」「身近に集える場所の確保」等が長年の課題となっている。地域によっては、より小さな単位である町内単位の課題把握に努めることで、具体的に焦点が当てやすくなり、課題解決への取組みやすさに繋がっているため、引き続き、地域の実情に応じて町内単位など身近な単位での対応が必要である。
- ・権利擁護については、長引くコロナ禍の影響で生活困窮世帯・社会的孤立世帯が増えており、虐待相談や処遇困難事例が増加していることから、専門職による介入のタイミングやアセスメント力の向上とともに、関係者による連携した支援が必要である。
- ・8050問題、経済問題、精神疾患や障がいのある同居親族への対応など、複合課題を抱える世帯への対応が増加している。医療・介護・障がい・権利擁護など様々な分野の専門職の連携を推進していく必要がある。

1. 令和5年度取組みの中で、特徴あるもの



2. 令和4年度の取組状況

(1) 地域ケア会議の状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

・認知症の方の地域での見守り方策、在宅継続のための日常生活支援方策、精神疾患の方への対応 等

個別支援会議開催状況 ・会議回数：114回（うち介護予防型個別支援会議22回）

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

1) いきいきセンターふくおか主催で高齢者地域支援会議を開催

・高齢になっても住み慣れた校区で安心して暮らせる地域にするために「身近な困りごと」や「行方不明高齢者」などをテーマに開催した。

また、小学校区単位だけでなく町内を単位とした地域の課題解決に向けた取組みを検討した。

2) 「南区いいともネット」各事業所ネットワークの地域貢献の取組み

- ・「出前講座、認知症サポーター養成講座」の開催
- ・「認知症行方不明者の声掛け訓練や捜索訓練」の協力(弥永校区で実施)
- ・地域のイベント開催協力(長住まつりの運営協力など)



弥永で長年継続する「声かけ訓練」に区長も参加しました



高木団地の会議をきっかけに行われた「健康イベント」

高齢者地域支援会議 ・会議開催校区（12校区、延べ回数：32回）

開催状況 ・検討内容：現状、課題について意見交換し、地域で高齢者を支えるための解決策検討、取組開始

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

● ACPの普及啓発

- ACPに関するCMの意識調査実施
- いいともネット研修会におけるACP講演会
- 圏域連携会議でのACP講演会・グループワーク（南第11圏域）



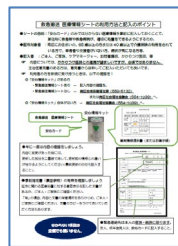
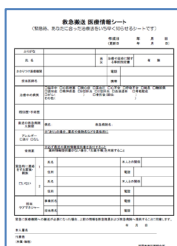
● 薬剤師会との連携

- 虚弱高齢者の把握
- いきいきセンターとの合同研修会
- 薬局よかトレ

● 「複合課題」に対する取組み

- 各地域ケア会議において「複合課題」を区の課題として共有。様々な場面で、課題解決のための連携促進を促した。
- 多職種連携研修会を複合課題につながるテーマで開催。グループワークを取り入れ、支援の視点について多職種で共有した。
- ・第1回「家族のケアをする子どもたち～ヤングケアラー～」(オンライン開催)
- ・第2回「身寄りなし高齢者の退院支援」
- ・第3回「老、病、死、喪失を受けとめ、助け合う『コンパッション』に支えられたコミュニティをめざして～」

● 「救急搬送医療情報シート」活用促進のための改訂



「救急搬送医療情報シート」に利用方法と記入のポイントを追加。事前指定書についての具体例を掲示。

圏域連携会議
開催状況

・会議回数：4回(うち対面開催3回、書面開催1回)
・検討内容：コロナ禍が長期化する中での医療と介護の連携、複合課題を抱える家族への支援、ACPについて、これまでの会議の振り返りと今後について

④ 区レベルの取組み（特徴ある取組み）

区地域包括ケア
推進会議開催状況

・区地域包括ケア推進会議：1回
・部会 ①在宅医療・介護部会：1回、②権利擁護部会：1回（オンライン）、③生活支援・介護予防部会：1回
・検討結果等：市に報告する課題として「複合課題に対応できる多職種の相互理解と連携の強化」「適切な介入とアセスメント力の向上及び関係者による連携した支援」「地域課題に沿った生活支援・介護予防の仕組みづくり」

- ・地域包括ケア推進会議では、各団体の互いの理解・連携促進のため、認知症をテーマとしたグループワークを通して意見交換を行った。
- ・在宅医療・介護部会では、地域ケア会議における抽出課題（複合課題）について、事例検討を通して各団体の視点からの意見交換を行った。また、救急搬送医療情報シートの活用促進のため、「利用方法と記入のポイント」を作成した。
- ・権利擁護部会で課題として挙げている「適切な介入とアセスメント力の向上及び関係者による連携した支援」に向け、包括社会福祉士と専門職とで事例検討・情報共有を行った。また、区で開催する処遇困難事例進歩会議において、事例に対する検討や振り返りを行い、区や包括内で共有した。
- ・生活支援・介護予防部会では、コロナ後初めて対面で、生活支援の取り組みと介護予防に向けた取り組みの情報を共有したほか、コロナ禍でも取り組めた活動情報を共有した。また、いいともネットがオブザーバー参加し、活動の報告や案内を行った。

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組み	具体的内容
多職種連携研修会	南区医師会が中心となり、昨年度に引き続き、複合課題につながるテーマで開催。グループワークを取り入れ、支援の視点について多職種で共有した。
市民啓発	ACPへの取り組みとして、市民センターにて「もしバナゲームとエンディングノートで始める私の終活」（2回シリーズの講座）を実施した。
認知症診療ネットワーク研修会	南区医師会が中心となり「認知症診療ネットワーク研修会」をオンライン開催した（1回）。
同一業種による連絡協議会開催 ①訪問看護ステーション ②介護支援専門員 ③小規模多機能	①年2回連絡協議会開催（対面）。年6回新人向け研修会を開催（オンライン含む）。区から連絡協議会に参加し、状況把握及び南区救急搬送医療情報シートの周知啓発を行った。 ②コロナ禍により全体での連絡会の実施はなく、グループ毎に活動が行われている。 ③コロナ禍後初の対面での連絡協議会を開催した。
事業所ネットワークの活動	16の事業所ネットワークで南区の25小学校区全域をカバーし、区内の事業所ネットワークの連合体「南区いいともネット」として活動。オンラインによる情報交換などを行い、コロナで停滞しがちな活動の継続をはかった。